山口県周辺の不老長寿伝承

人魚の肉を食す

仙崎の八百比丘尼

角島の尼宮

寿命貝を食す

筑前国遠賀郡の仙女

仙果を食す

上関祝島の「こっこう」

1．人魚の肉を食す

仙崎の八百比丘尼（髪白比丘尼）の伝承：「御国廻御行程記」

当館蔵「御国廻御行程記」第 7 巻の瀬戸崎の地名由来の貼り紙に、「この地（瀬戸崎）は往古（むかし）紫津が浦・長門の浦といったが、髪白比丘尼の出生の地ゆえ、のち仙崎と唱えた」と記されています。この八百（髪白）比丘尼伝承は、長門氏仙崎の八坂神社（祇園社）に伝わる「秋津洲穴戸国仙崎津静浦記」によると、「ある翁が、大きな亀（実は竜王の娘）を助けた礼に竜王に誘われ、海神の宮に招待され供応を受けた。そこで翁は偶然、2、3 歳ばかりの嬰児（実は人魚）が料理されているのを見た。その後、不老の薬としてその肉が出されるが、男は食べずに持ち帰った。その肉を食べてしまった翁の娘は不老長寿を得、最後は若狭にたどり着き、長者の嫁として栄華を極めて弘長元年（1261）に死んだ。420 歳であった。800 歳生きたのではなく、髪が白いので髪白（ハツビャク）比丘尼、また白比丘尼ともいう」という筋。世にあまたある八百比丘尼伝承の一つです。アニメ映画「ルパン三世 血の刻印～永遠の Mermaid～」でご存知の方も多いでしょう。

角島の尼宮：「寺社由来」（写真・釈文）

当館蔵「寺社由来」2000 所収の、下関市豊北町角島にあったという「尼宮」にまつわる伝承。他の多くの伝承と同様、「人魚の肉」を食った女児が不老となった話ですが、長寿の後、女船頭となって角島と本土の間にある瀬戸で水難死したということになっています。この瀬戸は難所で名高く、北前船もこの瀬戸を通らず、角島の北～西を迂回することになっていましたが、この伝承の背後には、そのような地理的な影が差しているとみてよいでしょう。元文 4 年（1739）に角島八幡宮神主岡村右近大夫から代官井上武兵衛に提出された記事です。

2．寿命貝を食す

筑前国遠賀郡の仙女：「美々婦久路」所収「筑前国遠賀郡庄の浦仙女寿命貝のあらまし」

当館毛利家文庫 29 風説 41「美々婦久路」に所収の「筑前国遠賀郡庄の浦仙女寿命貝のあらまし」は、福岡県北九州市若松区大字乙丸の貴船神社に伝わる、法螺貝を食って不老長寿を得た女性の物語です。

概略は、「ある年筑前芦屋浦の船が、奥州津軽の海岸に船がかりをして瀬戸物を売り歩いていたが、ある時山奥へ迷い込んだ。洗濯していた女房が国はどこかと聞いて非常に懐かしがり、私の故郷も筑前だといって、泊めてもらって色々な話をしたが、この女はもう 600 余歳であった。筑前にいた時分、病気になったが、子供たちが案じて珍しい貝を取って来て食わせてくれたら、すっかり回復したばかりか、衰え知らずになった。子や孫、ひ孫や玄孫にも先立たれたので、国を出て、全国を巡った末に津軽に来た。あの貝は自分の命の親なので、神職を頼んで、舟留松の近くの祠に納めてある。筑前に帰ったら尋ねてみてくれ、と伝言した。この商人が筑前に戻りそこを訪ねると、伝次郎という者の家にその法螺貝が伝わっていた」

「ほら貝」を食って不老長寿を得たという話は、筑後山門郡本吉に別話があり、先述した八百比丘尼伝承地の一つに、「九穴の貝」を食べたことによるとする例があります。また、山口県響灘沿岸では、トコブシを「千年貝」「センネンゴ」とよぶことが知られています。

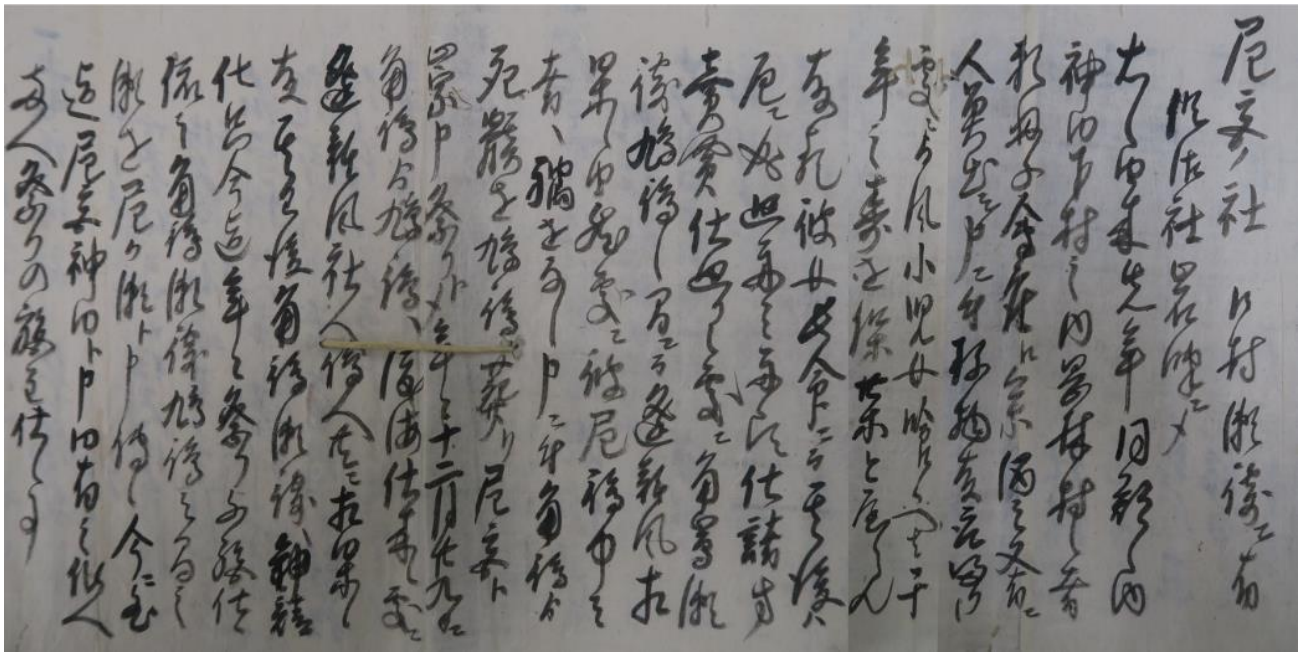
3．仙果を食す

上関祝島の「こっこう」：「祝島こっこう・蓬莱杖由緒書」

祝島（熊毛郡上関町）に古来「こっこう」とよぶ、キウイによく似た果樹（シマサルナシ＝ナシカズラ）があり、その実が長寿の仙果とされ、不老長寿を求めた秦の始皇帝の援助を受けた徐福が来島したとの伝承が残ります。なお、鹿児島県種子島や紀伊半島南端の串本町（和歌山県東牟婁郡）大島でもシマサルナシを「こっこう」とよび、串本のすぐ近くには、同じく徐福の伝承を濃厚にもつ熊野新宮があります。

当館蔵吉崎家文書 427「祝島こっこう・蓬莱杖由緒書」にはその由緒が記されており、台道村（防府市）の内田家がこれを「祝嶌之コツコウ少々入来仕候、是ハ往昔仙人之食とやら申伝へ、餘之嶋ニも無之」として入手していることからも、その名は広く知られていたようです（内田家文書 3493）。

角島の尼宮：「寺社由来」2000



一　尼宮ノ社　同村（角島村）瀬崎ニ有
　　但　御社岩畔ニして
右之由来先年同郡之内
神田下村之内岡村之者、
頼母子会座江参、酒之肴ニ
人魚出シ申ニ付、珍物*故取帰り候
処ニ、与風（ふと）小児女喰候へは、千
年之寿を保薬とやらん
故歟、彼女長命ニ而其後ハ
尼ニ成、廻舟の舟頭仕、諸方
売買仕廻り候処ニ、角嶋瀬
崎鳩嶋の間ニ而逢難風、相
果候由、然処ニ彼尼嶋中の
者へ禍をなし申ニ付、角嶋より
死骸を鳩嶋へ葬り、尼宮ト
崇申、祭りトして年々十二月廿九日ニ
角嶋より鳩嶋へ渡海仕来候処ニ、
逢難風、社人島人共ニ相果候
故、其已後角嶋瀬崎へ勧請
仕、只今迄年々祭り不絶仕候、
依之角嶋瀬崎鳩嶋之間之
瀬を尼か瀬ト申伝候、今ニ至
迄尼宮神田ト申田有之、作人
両人祭りの施主仕候事

＊刊本では「存物」だが原本により訂正

「尼宮」かと思われる石塁（角島瀬崎）

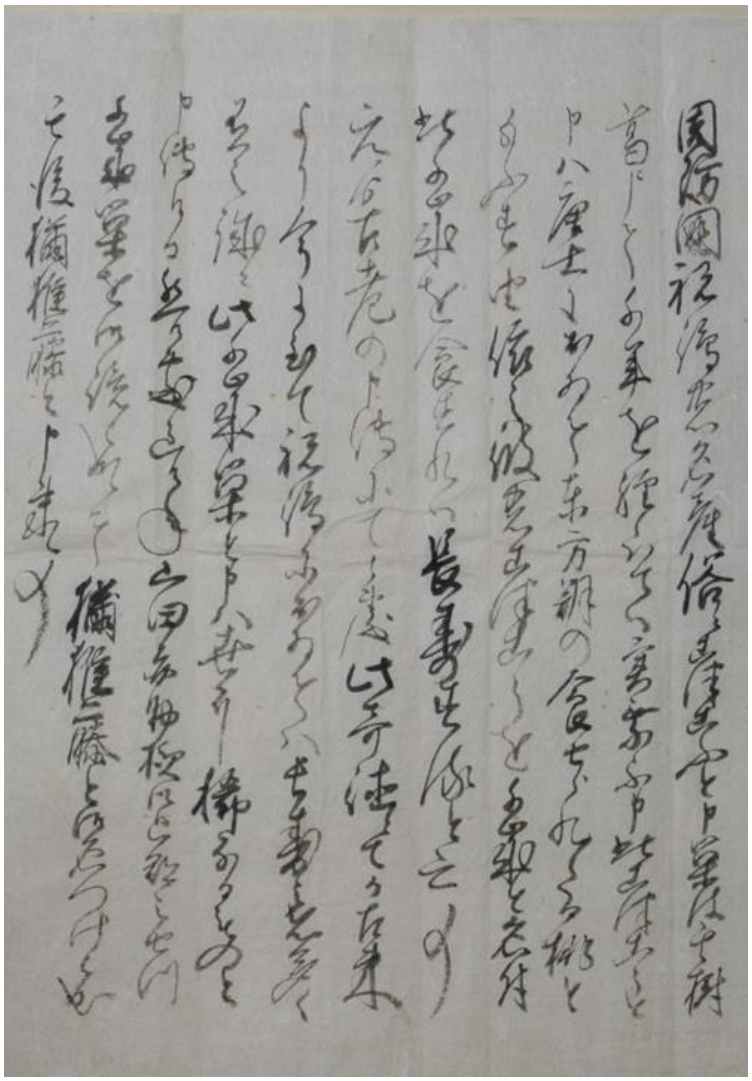
角島大橋。中央上が鳩島、向こうの角島に渡ったところの瀬が瀬崎

今回取り上げた４種類の資料は、以下のアドレスにおいて翻刻してあります。

http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/G0000006y2j2/Detail.e?id=2728520180223094343

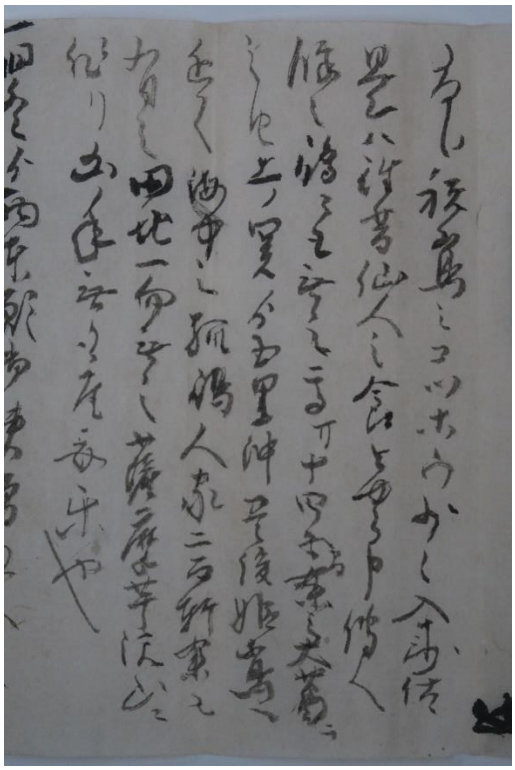
周防国祝嶋の名産、俗ニ古津古ふと申巣（菓）は、其樹葛ニして千年を経候ハでは実乗申さず。この古津古うと申ハ唐土におゐて東方朔の食せられたる桃ともふす由、依之、彼の古津古うを千歳と名付、此千歳を食すれば長寿すると云事元より古老の申伝にて候処、此奇徳にてか、古来より今に至て祝嶋においてハ長寿の者多く有之、誠にこの千歳巣（菓）と申は世に稀なるものと申伝ける、然ル所、過ル年山田亦助様御廻郡之せつ、千歳巣（菓）を御覧被成候て、＊獼猴藤と御名つけ被成、其後獼猴藤と申来候事。

＊中国語でキウイフルーツおよびその原種のシナサルナシは「獼猴桃（びこうとう）」。「獼猴」はアカゲザルのことです。



上関祝島の「こっこう」：↑吉崎家文書 427「祝島こっこう・蓬莱杖由緒書」

↓内田家文書 3493「祝島コツコウ、西本願寺派布教書簡」



尚々祝嶋之コツ古ウ少々入来仕候、
是ハ往昔、仙人之食とやら申伝へ、
餘之嶋ニも無之、高サ十四五間余之大葛ラ
之由、上ノ関より五里沖、豊後姫島へ
近く、海中の孤嶋、人家二百軒余モ
有之、田地一向無之、薩摩芋沢山ニ
作り、凶年無御座、安楽也

＊最後の「凶作無御座、安楽也」の部分で、祝島が一種のユートピア（桃源郷）であるとの認識を記しています。熊谷蓮心（京都鳩居堂の4代目当主。家業のかたわら、相次ぐ飢饉や疫病に心を痛め、社会事業に尽くしたが、安政のコレラ大流行で援護活動中に自らも罹患して命を落とした）に宛てられた書簡の一部です。